

## 編集後記

文学会の活動は会員の研究業績の発表のために論文を論叢に掲載することだけではない。会員が停年退職する場合にはそれを記念するために退職予定の会員の肖像写真と略歴を掲載している。今回は六名の停年退職予定者があったが、その中の二名がそれを強く辞退された。辞退された会員は、崔応斗教授、園音巳助教授の二名である。

文学会は、例年停年退職予定者による退職記念講演会も行っている。一九九八年度は、六名の停年退職予定者があった。人数が多かったので、一日では終わらないと判断して、例年開催していた海外研修者の講演会を取りやめて、停年退職予定者の講演会を二回設定した。しかし、当該者で辞退者があり、退職者全員の講演を聞くことができなかったのは、残念であった。

文学論叢一一八輯は、分載になった二本を含めて、十三点の論文を掲載した。実際には十六点の投稿申し込みがあったが、研究成果を一つの論文としてまとめようとしている投稿を分載にしたり、次号回しにしてしまい、期待に応えられなくて残念であった。

文学論叢は、かつては、年間三回発行していたが、現在

は年間二回発行になっている。論文の分量が規定よりも多くなっていることも問題ではあるが、予算によってページ数を増やせないことはもっと大きな問題である。愛知大学の運営にはいろいろな冗費が見られるが、それらを放置しておいて、紀要の出版費用を制限するのは異常なことであると思う。まともな判断能力のある大学であれば、ありえないことであろう。

平成十一年二月十五日 印刷  
平成十一年二月二十日 発行 (非売品)

編者 愛知大学文学會  
代表者 奥村敏

印刷所 豊橋市東森岡  
有限会社 三愛企画

発行所 豊橋市町畑町  
愛知大学文学會  
振替〇〇八三〇一―四五六五四